

軍事化進む宮古島へ

2025南大阪沖縄現地学習会

4月18日～20日、南大阪平和人権連帯会議の取り組みに支部からは、3名で参加しました。

例年、沖縄本島の戦跡を中心に視察、学習を行っています。今年は沖縄本島より遠い宮古島まで行ってきました。目的は近年、急速に進む琉球弧の軍事化を学習するためです。

現地では、宮古島住民連絡会の共同代表である清水早子さんから説明を聞き、自衛隊基地前で「宮古島にミサイル基地はいらない！宮古島を戦場にさせない！戦争につながる電子線部隊の配備反対！」さらに、「宮古島トライアスロンボランティア活動での迷彩服着用

に反対する」シュプレヒコールをしました。

その後も、日本軍『慰安婦』祈念碑や、準天頂衛星『みちびき』の管制塔などの説明してもらいました。その中でも私の印象に残っているのは、保良地区の驚くほどの弾薬庫の数々、民家まで250mの近くでの射撃場など住民の声も



聞かずに今もなお、基地建設拡大が続いている事には驚きを隠せませんでした。

1945年9月に米軍兵が宮古島に上陸し、日本軍の武装解除を行った事から、住民連絡会が自衛隊の電子戦部隊が車両輸送するのを阻止行動する思いが伝わりました。

3日間、宮古島の美しいエメラルドグリーンの海に囲まれた景色と名所めぐり、軍事化される宮古島の現状を学びました。

(執行委員 和泉 清)

4・25海上行動

辺野古新基地建設本体工事は、2017年4月25日から始まった。それに対して抗議するため、4月25日から3日間、8年目となる海上行動に、田村執行委員と参加した。

カヌー32艇、船6隻が大浦湾側での杭打ち作業現場近辺に集まり、抗議の声を上げた。朝から心配した天気ももち、風もなく海面



は信じられないほど静まっていた。

私たちは辺野古で約20年カヌーを漕いでいるが、まるで私たちに「工事を止めてくれ」と言わんばかりの静けさで、このような状況は初めてだ。



大浦湾では地盤改良船(サンドコンパクション船)が6隻も配備され、その光景はとてつもなく大きい。実際に近くで見ると迫力は



違う。

大浦湾に約7万1千本もの砂杭を打つ工程だが、90メートルもある軟弱地盤に杭は打ちこめない。無謀な工事で生物多様性の海を壊すことは許されない。

この8年間政府は「辺野古が唯一」との繰り返いで「代執行」という、とてつもない強権を振りかざして工事を強行している。同行した金井船長は「来年はもうこの集会をしないで済むように、工事を止めたい」とあいさつされた。

(副委員長 陣内 恒治)



第96回中之島メーデー開催



5月1日、中之島公園剣先広場にて第96回中之島メーデーが開催されました。

近年稀にみる晴天の中で、「労働者の国際連帯で、平和と豊かな生活を勝ち取ろう！」をスローガンに支部155名を含め400名が参加されました。

集会は、今年の主催団体である南守全労協議長の挨拶で始まり、物価高や平和の担保が出来ない今の時代を変えるべく「戦争ではなく共生社会」「大幅賃上げ」「労働組合弾圧

反対」「最賃を1500円に」「IR・カジノ反対」「大軍拡反対」「沖縄・琉球弧の軍備反対」「労働法制改悪反対」「あらゆる差別反対」のサブスローガンが提起されました。その後、各団体あいさつ、政党・議員あいさつを経て闘争・争議報告があり、支部からは大和運輸分会、梅南鋼材分会、また、大和鋼業(ユニオンおおさか)の闘争報告がありました。

集会終了後は、西梅田公園までデモ行進を行い、沿道の市民



にアピールをしました。

課題として、各単組の実務担当が、時を経て替わって行く中で、「中之島メーデーの趣旨」やシュプレヒコールのやり方など、課題も浮き彫りになったメーデーでした。

(委員長 小林 勝彦)



共存の歴史伝える重責

教宣部フィールドワーク in コリアタウン

今回私たち教宣部と青年部合同で行ったフィールドワーク（現地学習会）が、大阪にあるコリアタウンで総勢13名で行われた。

4月13日朝10時に鶴橋駅に集合し、ガイドを担ってくれたのはNPO法人コリアNGOセンターで代表理事を務める「郭辰雄（カクチヌン）」氏である。

鶴橋駅がある生野区は、大阪市24区内で一番外国籍が多い地域であり、生野区民の約22



%が外国籍だ。

グルメや韓流でにぎわっている鶴橋駅周辺だが、鶴橋駅前街宣車が外国籍の人に対し、差別的な活動が行われた歴史があり、2016年6月3日「ヘイトスピーチ解消法」が施行されるまで、実際に行われていた。

この話にはるか過去の歴史ではなく、つい最近のでき事であり、我々もまた当事者であることを改めて考えさせられた。

商店街を抜け、コリアタウンに向かうメイン道路「豊里矢田線」は通称「疎開道路」を歩いた。「疎開道路」は、太平洋戦争末期の1944年に、道路を拡張させるため、この地域の家や店を取り壊し、人も建物も疎開させられたことからだ。

舗装され美しい見た目からは伺い知れない戦争の名残を、郭氏は語った。

「疎開道路」を経て「コリア

タウン」正式名称「御幸通商店街」に到着した。長さ約500mのコリアタウンには「仁徳天皇」がまつられた「御幸森天神宮（みゆきもりてんじんぐう）」があり、日本と韓国の歴史の長さや深さを感じた。

最後に今回の目的地、2年前から100%民間等の寄付で開設・運営されている「大阪コリアタウン歴史資料館」に向かった。

資料館では、今でこそ受け入れられつつある韓国文化の歴史が展示され、「郭」氏は、新しく進化したコリアタウンの歴史を展示し、今の華やかさの裏にあった過去や、共存の歴史を伝える重責を「大阪コリアタウン歴史資料館」に担ってもらっているのだと語った。

半日という短いスケジュールではあったが、今回のフィールドワーク学習を終え、コリアタウンにある韓国風ネオ酒場「南大門（ポチャ）」での食事に舌鼓を打ちながら和やかに解散した。（教宣部 大藏秀介）

ユニオン総行動2025

4月16日、おおさかユニオンネットワーク春季総行動が実施されました。大阪府下20以上の加盟労働組合が結集し、各労組の争議解決に向け、春季と秋季に抗議行動をおこなっています。今回の行動には、ユニオンおおさかから大和鋼業分会をくりいれました。

2013年、4名で分会を結成。様々な問題を解決しつつ労使関係を築けていましたが、6年前から役員体制が変わるとともに、ユニオンネットワーク争議ではよく聞く弁護士介入より労使関係が崩壊。

2022年より新たな考課及び評価制度について協議を繰り返す間に、会社が制度を強行したため決裂となり、分会自力での大阪府労働委員会への救済申し立てを行いました。その半年後に、賃金の問

題を抱えていた同じ職場の外国人労働者（特定技能実習生）から労働相談があり、一緒に会社と闘い改善していこうと声を掛け、さらに21名が加入し、計40名となりました。外国人労働者の賃金の件でも団体交渉が決裂し争議へと突入。

始業時からストライキも

腕章闘争、始業時からの時限スト、社長宅・会長宅への抗議行動、近隣へのポスティングを継続。常に行動は全員行動と団結が深まる中、総行動当日を迎えました。

分会員全員で始業時よりストライキを決行、ユニオンネット到着後に、全港湾含めた代表団との交渉を社長自身が承諾し、解決に向けた一定の回答を得てストライキ



解除となりました。

現在、職場では様々な雇用形態が用いられ団結しづらい状況が増えています。そのような中でも大和鋼業分会は、職場での問題は自らのこととして改善しようとする姿勢が仲間を増やし、行動にも活気あふれるもので、自身も何度か行動を共にすることにより感銘を受けました。まだ、解決には至っていません。結果を出すまで気を許さず共に闘っていきます。

（書記長 吉馴真一）

不当な判決に大きな疑問

加茂生コン差戻し判決

4月17日、大阪高裁で加茂生コン差戻し判決がおこなわれました。

裁判所前の公園には150名を超える仲間が結集し裁判所回りのデモをおこない、その後の集会では各労組をはじめ判決を待つ当該組合員2名から心強い決意表明がありました。

そして判決の言い渡しがおこなわれ、1名の組合員の方は無罪、もう1名の組合員には懲役6カ月執行猶予3年が言い渡さ



れました。

1名の無罪判決については前回の高裁判決のままでしたが、もう1名の組合員については以前の判決（罰金刑）より重い判

決が言い渡されました。

判決を聞きながら、こみあがる悔しさとともに「こどもを保育園にいかせるために必要な証明書を求めたら犯罪になるの?」「組合加入するまでは証明書を提出していたのに組合加入したら出せなくなるの?」「組合執行部が社長に証明書を何度も求め、会社の不誠実な対応に怒りの声を挙げたら、懲役刑になるの?」こんな思いを自問自答していました。

こんな判決を平然と出す司法制度のあり方に怒りを覚えます。この怒り、悔しさを力に変え、皆さんと団結力をもって糾弾できればと思います。

（教宣部長 佐久原 智彦）



= 扇町公園に3500人が結集 =

5月3日、扇町公園にて、「輝け！憲法 平和といのちと人権を」おおさか総がかり集会に、大阪支部から10分会53名、総勢（主催者発表3500人）が参

加し、開催されました。

オープニングでは、土魂鼓さんによる迫力のある太鼓演奏があり、開会あいさつを米田彰男さん（1000人委員会大阪）が



行いました。

メインスピーチでは、中村桂子さん（長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授）が、「被爆80年、核のタブーの原点に立ち返る」について話されました。

1945年8月6日に広島、9日に長崎に投下された原子爆弾の何千倍もの威力ある核兵器が、存在することを、私は初めて知りました。

日本は世界唯一の被爆国であり、核兵器の危険性を再認識し、核兵器廃絶を訴えることが重要です。被爆者の証言を次世代に伝えなければならないと思いました。

集会終了後、多くの仲間たちと裁判所前コースと中崎町コースに分かれ市民に「平和と憲法を守ろう」と声を上げ、デモを行いました。

（教宣部 中山 謙一）